# 施策3

# 持続可能な資源循環型地域社会 の形成

主管部長(課)

環境清掃部長(清掃リサイクル課)

関係部長(課)

環境清掃部長(清掃事務所)、土木部長(施設保全課)

# 1 施策目標

# 江東区の目指す姿

区民・事業者・区が、適切な役割分担の下で自ら積極的に5R(リフューズ・リデュース・リユース・リペア・リサイクル)に取り組み、環境負荷の少ない持続可能な資源循環型地域社会が実現されています。

### 施策実現に関する指標(代表指標)

指標名	単位	現状値 (元年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	目標値 (6年度)	指標担当課
区民1人当たり1日の資源・ごみの発生量	g	639 (30年度)	642	656 (2年度)	641 (3年度)			591	清掃リサイクル課

**指標選定理由** 5Rの取り組みが、ごみ減量にどの程度反映されているかを判断する指標であるため

### 施策コストの状況

種	別	4年度予算	4年度予算 4年度決算		6年度予算
トータノ	ルコスト	7,956,720千円	7,641,357千円	8,916,817千円	9,658,186千円
事	事業費	6,413,606千円	6,298,522千円	7,421,082千円	8,041,658千円
	人件費	1,543,114千円	1,342,835千円	1,495,735千円	1,616,528千円

## ≪参考≫施策を取り巻く状況(社会状況/国・都の動向)

- ◆平成27年9月、国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ(後進の課題解決のためのSDGsを含む)」を 採択し、平成28年5月に制定された「持続可能な開発目標(SDGs)の実現のための指針」では、目標12「持続可能な消費 と生産(つくる責任、つかう責任)」が示され、ゼロウェイスティングの実現・海洋プラスチック問題・廃プラスチックの適正処 理と、プラスチックの3Rが世界規模での大きな課題となっている。
- ◆国は、プラスチックの資源循環を総合的に推進するため、令和4年4月に「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」を策定し、プラスチック廃棄物の排出抑制、プラスチック廃棄物の分別収集・自主回収・再資源化の促進等について、法制度化した。これにより製品プラスチックも「プラスチック資源」として回収できる枠組みが整備された。

# 2 施策目標の達成に向けた具体的な取組方針

取組方針1	持続可能な資源循環型地域社会実現に向けた啓発と情報発信
主な取組	一般廃棄物処理基本計画の推進管理
取組内容	◆「一般廃棄物処理基本計画」に掲げる目標や事業の推進について、ごみ組成調査を実施するなど、ごみが適正処理、資源がリサイクルされ資源循環社会が形成されているのかを確認し、計画の目標達成状況を管理、事業の透明化を図る。
主な実施事業	一般廃棄物処理基本計画推進管理事業
取組方針2	5R(リフュース゛・リテ゛ュース・リユース・リハ゜ア・リサイクル)の推進
主な取組	イベント参加、生ごみ減量に向けた資器材貸与・購入費助成等によるごみ減量の普及・啓発
取組内容	◆環境フェアや区民まつりへの参加、生ごみ減量に向けた堆肥化資器材等の貸与・電動式生ごみ処理機の購入費助成、フードドライブ事業、「食べきり協力店登録事業」等により、食品ロス削減・ごみ減量の普及、啓発に取り組んでいる。スーパー等の資源店頭回収の促進に向けた支援も実施する。
主な実施事業	ごみ減量推進事業、緑のリサイクル事業
取組方針3	ごみの適正処理と資源化の一層の促進
主な取組	資源物の分別収集・再商品化を推進し、資源循環社会の形成とゼロカーボンシティの実現に寄与
取組内容	◆びん・缶・ペットボトル等の資源物の分別収集と再商品化を推進するとともに、集団回収による地域のリサイクル活動を促進する。今年度より新たに製品プラスチックを資源回収し、容器包装プラスチックとあわせて資源化することで、資源化量の増加とCO2の削減につなげる。
主な実施事業	ごみ収集運搬事業、資源回収事業、集団回収団体支援事業
取組方針4	事業系廃棄物の減量
主な取組	大規模事業用建築物排出指導
取組内容	◆大規模・中規模建築物への立入調査により指導・助言や廃棄物管理責任者講習会を開催し、事業系ごみの減量、資源化に努めている。
主な実施事業	大規模事業用建築物排出指導事業

# 3 取組方針の実施状況

取組方針1 持続可能な資源循環型地域社会実現 に向けた啓発と情報発信 主管部長(課) 環境清掃部長(清掃リサイクル課) 関係部長(課) 環境清掃部長(清掃事務所)

区報やホームページ、スマートフォン等を利用し、積極的な情報発信を行うとともに、区立小学校での環境学習や、町会・自治会などの地縁団体を含めた区民・事業者向けの啓発活動を行い、持続可能な資源循環型地域社会づくりの啓発に取り組みます。また、「えこっくる江東」では、東京のごみをめぐる戦いの展示内容を充実させ、区の内外にその歴史や本区の果たした役割を広く発信するとともに、身近な歴史から環境問題を捉え、考える場を創り出します。

### 取組コストの状況

	種別	4年度予算	4年度決算	5年度予算	6年度予算
1	ータルコスト	13,150千円	11,667千円	6,201千円	6,514千円
	事業費	2,154千円	2,094千円	2,265千円	2,203千円
	人件費	10,996千円	9,573千円	3,936千円	4,311千円

#### 成果と課題

- ◆3年度に一般廃棄物処理基本計画の改定を行い、食品ロスの削減とプラスチックの資源循環を重点施策として盛り込んだ。また、新たに児童・生徒向けの概要版を作成した。
- ◆災害発生時の廃棄物処理に関する基本的事項や平常時の備えを示す災害廃棄物処理計画を3年度に策定した。今後は、関係職員の災害廃棄物処理に関する能力向上や具体的な事項の整理等に取り組む必要がある。
- ◆区立小学校での環境学習、区民向けのリサイクル講座や清掃施設見学会等は昨年度同様、新型コロナウイルス感染 が、影響により中止した。感染症対策を踏まえた実施方法の検討や代替手法等を検討し、各種啓発事業を再開してい
- ◆ごみ減量の推進について、区報・HP・SNS等を用いて積極的な情報発信・啓発活動を行った。令和4年3月には身近な ごみ減量と環境配慮の啓発を目的とした「ごみの減量と環境配慮の買い物ガイド」を改定した。

# 取組方針2

5R(リフュース゛・リテ゛ュース・リユース・リハ° ア・リサイクル)の推進

主管部長(課) 関係部長(課)

環境清掃部長(清掃リサイクル課)環境清掃部長(清掃事務所)、土木部長(施設保全課)

マイバッグの持参や、生ごみの減量、家庭・飲食店での食品ロスの削減など、5R の中でも特にリフューズ(断る)・リデュース(発生抑制)のごみを発生させない取り組みを推進します。

### 取組コストの状況

種別		4年度予算	4年度決算	5年度予算	6年度予算
	トータルコスト	113,607千円	80,643千円	111,304千円	124,060千円
	事業費	45,632千円	21,464千円	41,449千円	50,765千円
	人件費	67,975千円	59,179千円	69,855千円	73,295千円

## 成果と課題

- ◆環境フェア・区民まつり等でマイバックの配布、ごみ減量ゲーム等を行い5Rの普及・啓発に取り組んだ。引き続き感染症対策を踏まえた実施方法の検討、「ごみダイエット家計簿」のような自宅で気軽に取り組めるコンテンツを充実させるなど、区民の自発的な取り組みを促進する必要がある。
- ◆家庭系燃やすごみの33%を占める生ごみを減量するため、生ごみたい肥化資器材等を使って生ごみ減量に取り組む 区民の公募や、家庭用電動式生ごみ処理機の購入費の助成を行うなど、生ごみ減量の普及・啓発にあたっている。4年 度はたい肥化資器材等の貸与に190名(定員150名)の申込みがあり、そのうち126名が取り組んだほか、10月から開始し た電動生ごみ処理機の購入費助成は82件の申請があり、助成額の合計は1,343,900円であった。生ごみ減量への区民 の関心の高まりが見受けられ、引き続き本事業について普及啓発を進める必要がある。
- ◆「江東区食べきり協力店」制度を令和元年10月よりスタートさせ、食品ロス削減へ協力してもらえる区内飲食店を募集している。食べきり協力店の周知と食品ロス削減の輪を広めることを目的に、昨年度に引き続き、令和5年1月に食べきり協力店をめぐるスタンプラリーを実施した。登録店舗数は前年度比約1.1倍の59店舗となった。
- ◆フードドライブについては、2年度に無印良品東京有明店で店頭常設回収を開始した。3年度は区内こども食堂へフードドライブ回収品の提供を開始し、区内循環の体制を整えた。令和5年1月からは文化センター・スポーツセンターにも常設回収窓口を設置し、現在は区内17か所で回収を行っている。回収した食品の保管場所の不足や集約作業の負担が課題となっている。

# 取組方針3

ニー ごみの適正処理と資源化の一層の促 進

主管部長(課) 関係部長(課) 環境清掃部長(清掃事務所)

環境清掃部長(清掃リサイクル課)

安全・安心なごみの適正処理を推進するため、資源・ごみの分別の徹底を図り、水銀含有廃棄物やスプレー缶等 の適正処理を更に進めていきます。また、区民や地域団体による集団回収の活動を支援するとともに、容器包装 プラスチック、不燃ごみ等の資源化についても着実に取り組みます。さらに、新たな資源化手法についても調査・ 研究を進めていきます。

### 指標

析

指標名	単位	現状値 (元年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	目標値(6年度)	指標担当課
資源化率	%	27.3 (30年度)	27.2	27.4				28	清掃リサイクル課

### 指標選定理由

資源のリサイクル推進に向けた区の取り組みに対する効果を示す指標であるため

達成度

◆3年度の資源化率は27.4%と、前年とより微増であり、目標の達成に向け更なる5Rの取り組みの周 知啓発が必要となる。

4 (順調) ◆古紙・缶・びん等の資源については、資源輸出先各国の法制度改正等により市況価格の変動が激 しい状況が続いている。また、ペーパーレス化等により新聞・雑誌の回収量が減少傾向である。

### 取組コストの状況

種別 4年度予算 4年度		4年度決算	5年度予算	6年度予算	
	<b>〜</b> ータルコスト	7,802,790千円	7,525,831千円	8,772,338千円	9,499,177千円
	事業費	6,364,638千円	6,274,375千円	7,375,975千円	7,987,202千円
	人件費	1,438,152千円	1,251,456千円	1,396,363千円	1,511,975千円

#### 成果と課題

- ◆プラスチック資源循環法の施行に伴う製品プラスチックの資源化について、江東区の現状を踏まえ、回収方法、資源 化ルート、費用対効果等を検証し、令和5年10月より資源回収を開始することとなった。区民に混乱のないよう丁寧な説 明が必要であり、分別説明チラシ、ポスター、動画等を利用し、広く周知を進めていく。
- ◆古紙市況価格の下落の中でも特に落ち込みが大きい雑誌回収業者の事業継続を支援するため、業者奨励金の支給 単価の上限を3円/kgから4円/kgに引き上げ、3年度に施行した。 ◆家庭用パソコンの宅配便による回収を令和4年9月より開始した。引き続き広く区民への周知を進めていく。

#### 取組方針4 事業系廃棄物の減量

主管部長(課) 環境清掃部長(清掃事務所) 関係部長(課)

区内大規模建築事業者及び中規模建築事業者に対する立ち入り調査を実施し、指導及び助言を行うことで、事 業系廃棄物の再利用を推進します。

### 指標

3 H 1/3*									
指標名	単位	現状値 (元年度)	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	目標値 (6年度)	指標担当課
事業系廃棄物の再利用率	%	<b>71.4</b> (30年度)	71.7	72.1				73.4	清掃事務所

#### 指標選定理由

大規模建築物事業者に対する立ち入り指導等の成果を示す指標であるため

達成度 析 (順調) ◆新型コロナウイルス感染症の影響により中止となっていた大規模・中規模建築物への立入指導や 廃棄物管理責任者講習会を、感染対策を講じ再開したことにより指標の向上につながっている。

### 取組コストの状況

種別		4年度予算	4年度決算	5年度予算	6年度予算
7	ータルコスト	27,173千円	23,216千円	26,974千円	28,435千円
	事業費	1,182千円	589千円	1,393千円	1,488千円
	人件費	25,991千円	22,627千円	25,581千円	26,947千円

### 成果と課題

- ◆区の取り組みは概ね順調に推移しているが、新型コロナ前までの水準には達していない。 立入指導件数、講習会参加 者の更なる増加に向けた取り組みなどの課題がある。
- ◆立入指導は、事業者の再利用実施状況を直接確認し、改善点を指導・助言できるため、再利用率の向上につながっ ているため着実に進めていく。

# 4 一次評価《主管部長による評価》

総評	◆コロナ禍による家庭での巣ごもりの減少もあり、区民1人あたりの資源・ごみ発生量は減少傾向にある。また、資源化率は微増している。令和5年10月から製品プラスチックの資源回収を開始するが、引き続き目標値達成に向けて5Rの推進が必要である。
今後の方向性	◆現在の最終埋立処分場は東京港最後の埋立処分場であり、今後新たな埋立処分場の確保が困難なことから、ごみの発生抑制に向けた取り組みを更に推進していく。 ◆多種多様なライフスタイルを持つ区民へ、誰にでも分かりやすく、誰でも実践できる、ごみを発生させない取り組みを周知するため、区報・SNS等を利用した情報発信を行い、5Rの理解促進に努める。 ◆製品プラスチックの資源化に向け、容器包装プラスチックと合わせた一括回収を始めることにより、CO2の削減につなげ、環境負荷の少ない持続可能な資源循環型地域社会の実現を目指す。

# 5 外部評価委員会による評価

(令和3年度外部評価実施済施策)

6 二次評価([	<b>区の最終評価》</b> ※3年度の外部評価結果を反映した評価について太字で表記してあります。
総評	◆代表指標については、主にコロナ禍による外出自粛等により、家庭ごみが増加したことに伴い計画策定時の現状値から低下しているが、取組方針の指標については概ね順調である。 ◆今後も施策が目指す江東区の姿の実現及び指標の向上に向け、下記について着実に取り組む必要がある。
実現に向けた 取り組み	◆5Rによるごみの発生抑制とごみの適正処理について、取り組みの必要性や事業目的・効果を分かりやすく情報発信するなど、引き続き区民・事業者・区が連携し、ごみ問題に対する普及啓発に着実に取り組む。 ◆国の「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に基づき、製品プラスチックの資源化に向け、容器包装プラスチックと合わせた一括回収を始めることにより、環境負荷の少ない持続可能な資源循環型地域社会の実現に取り組んでいく。 ◆引き続き区民・事業者が手軽に環境情報を入手し理解を深める仕組みづくりに努めるとともに、こどもから大人までより多くの区民の自発的な行動や活動につながるよう、効果的な事業展開を検討する。 ◆国・都の動向に注視しつつ、資源化の促進にあたり、引き続きCO2削減効果やコスト分析など費用対効果の検証を確実に行い、効率的・効果的な事業展開を図るとともに、脱炭素社会の実現に向